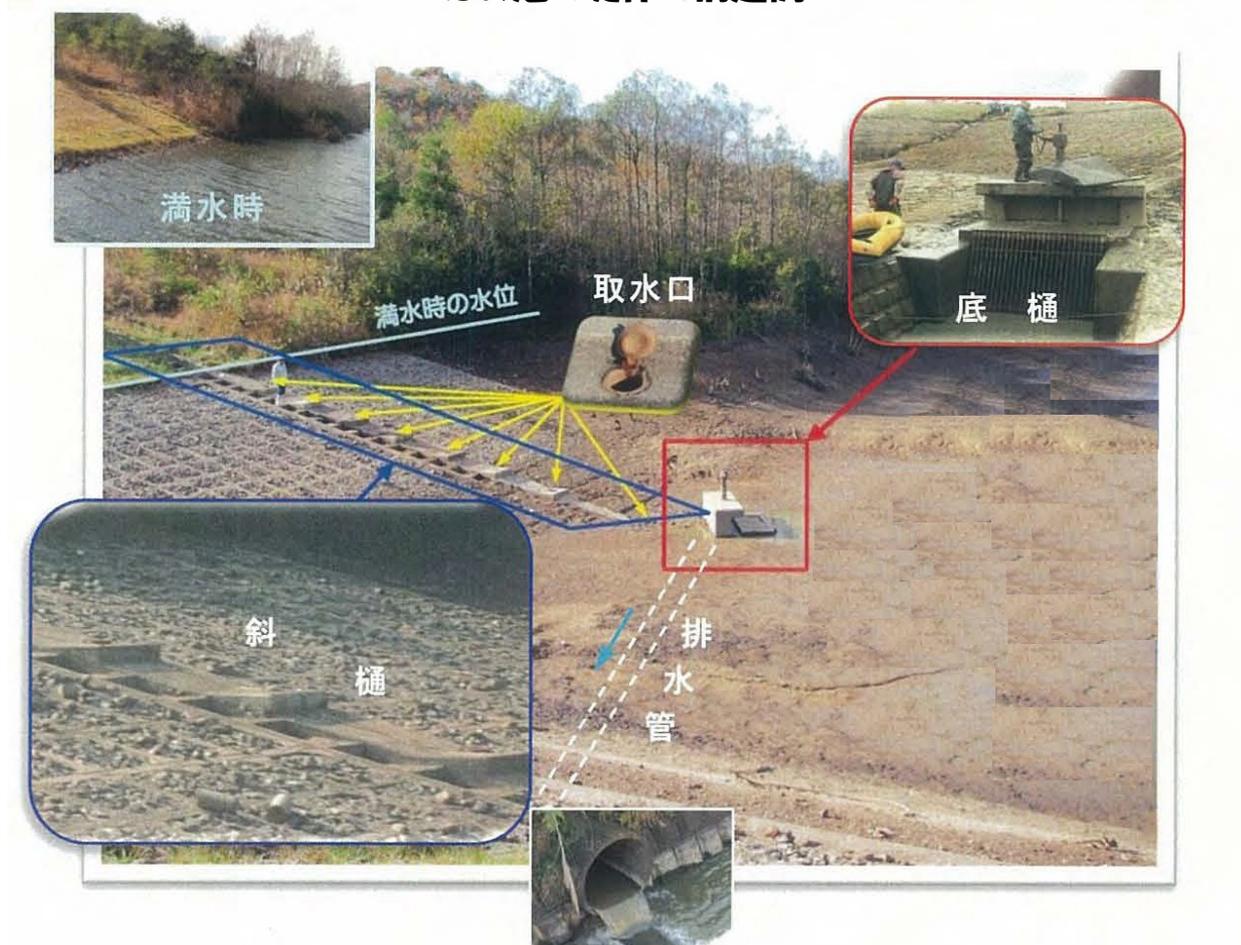


《 ため池の点検・管理マニュアル 》

☆ 日常の維持管理と点検をして、事故・災害を防ぎましょう！

ため池の堤体の構造例



このマニュアルは、ため池の管理に必要な基本的事項や重要ポイントをまとめたものです。

日常管理のポイント

- 日常の維持管理は、ため池の貯水機能を維持するだけでなく、災害を未然に防ぐための異常発見にもつながります。貯水の前や貯水時には必ず以下の事を行ってください。

日常点検のポイント

- ため池の点検は、貯水前後はもとより、貯水時及び豪雨や地震等の異常時には点検をおこない、その結果を記録してください。
- 点検や見回りの際は、安全確保のため、必ず「複数の人」で行動してください。
- 次のような異常を発見した場合は、市役所まで相談してください。

1. 堤体の管理・点検

📌ポイント

・堤体法面の草刈を定期的に行う

〔解説〕堤体の草刈りは、はらみだしや漏水などの堤体の変状を見つけやすくなることに繋がります。年に1回以上は草刈りを行い、速やかに堤体の変状を確認しましょう。

刈った草が堤体を覆った状態ですと堤体の表面の様子をよく確認できないので、刈った草は取り除き、草刈り後は法面をよく踏みしめて下さい。

大きくなる樹木が生えている場合は、幼木のうちに除去し、モグラやイノシシ等が掘った穴があれば、水が出ていないかどうか確認し、堤体と同じような土で突き固めながら埋めます。

・堤体法面の点検の要点

- ① 堤体法面に「陥没」や「亀裂」、「はらみ出し」が生じている箇所の確認。
- ② 堤体法面の張石、積みブロックなどに損傷や浸食箇所の確認。
- ③ 堤体の下流法面に湿潤土壌を好む「シダ」「フキ」「コケ」類の繁茂等、植生の変化の確認。
- ④ 堤体の“へり”の部分から漏水の確認。
- ⑤ 堤体の底部法面や小段の側溝部で水のしみ出しや湧水、堆砂の確認。

2. 洪水吐(余水吐)の管理・点検

📌ポイント

・洪水吐の越流断面内や越流堰（壁）から下流の水路内に障害物（流木やゴミ等）があれば速やかに清掃を行いましょう

〔解説〕ため池の洪水吐は、大雨の際に堤体を守るため、上流で発生する洪水を安全に下流へ流すものです。このため、越流断面内に障害物があると、ため池が溢れる原因となり危険です。（貯水量を増やすために土のう等はつまないこと！）

このため、日常の管理においては、洪水吐の土砂や流木等の障害物をこまめに取り除くことが必要です。

また、洪水吐下流の水路がトンネル構造であったり水路上部に橋が存在する場合も流木等で流水を阻害する可能性がありますので、障害物が確認された場合は速やかに撤去する必要があります。

・洪水吐の点検の要点

- ⑥ 水路コンクリート表面のひび割れから湧水がみられる。また鉄筋がむき出しになっている箇所の確認。
- ⑦ 側壁の天端のはらみだし、また水路内側へのたわみの確認。
- ⑧ 水路の底版や側壁に激しいすりへりや損傷の確認。

⑨ 洪水吐内またはその下流水路に植物の繁茂の確認。(速やかに植物やゴミ等の除去)

⑩ コンクリート(洪水吐)と堤体の境界に隙間の確認。

3. 取水施設の管理・点検

👉ポイント

・巻上げ機、ゲート、斜樋の蓋等は、定期的に潤滑油の注油や掃除等を行い、施設の作動に異常があった場合は速やかに点検、修理する

〔解説〕巻上げ機、ゲート、斜樋の蓋等が正常に機能しないと取水に支障が生じるほか、洪水や地震などの緊急時にため池の水位を下げるができなくなる場合があります。

定期的に潤滑油の注油や掃除等を行うとともに、腐食の状態にも注意し、施設の動作に異常があった場合は速やかに点検、修理することが重要です。

・取水施設の点検の要点

- ⑪ 斜樋が損傷している。底樋が破損したり通水障害を生じたりしていないかの確認。※
- ⑫ コンクリート(斜樋)と堤体の境界に隙間の確認。
- ⑬ ゲート周りに漏水が生じたり、周辺に土砂やゴミが堆積していないかの確認。※
- ⑭ 取水ゲート全閉にも関わらず底樋出口から泥水が出ていないかの確認。
- ⑮ 下流地盤において、湿地や水溜りがみられないかの確認。

上記「※」の項目が確認された場合は、速やかに植物やゴミ等の除去をしてください。

4. その他・周辺斜面の点検要点

- ⑯ 貯水池内で大規模な斜面の崩壊や連続した亀裂・湧水が発生している箇所の確認。
- ⑰ 堤体に近接した法面で、連続した亀裂・湧水が発生している箇所の確認。

◎年に一度は、ため池の水を抜いて上記項目の点検を実施しましょう。

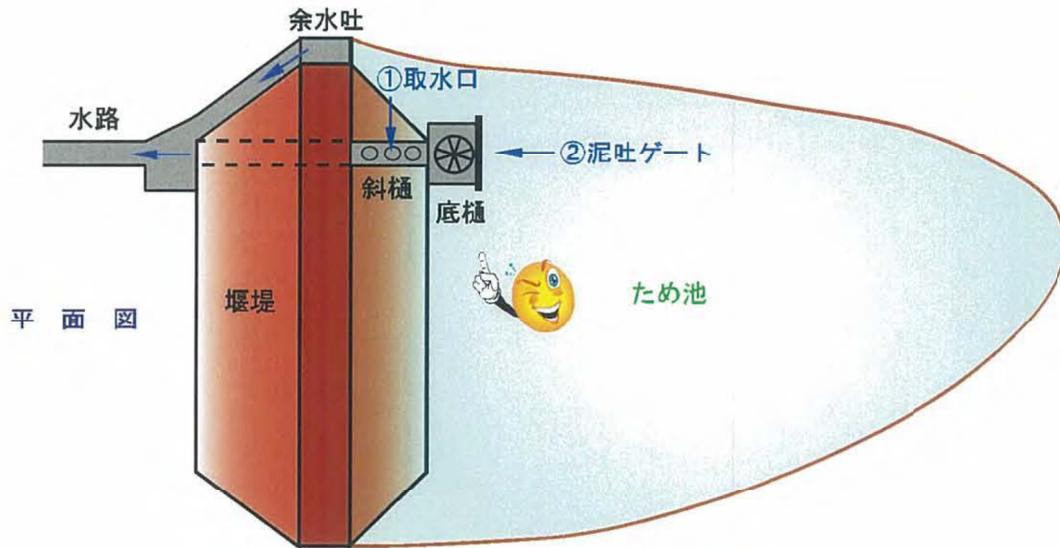
※ 貯水操作

ため池の貯水位を急に上げたり下げたりすると、堤体に浸透する水が原因で壊れたり、法面が滑ったりすることがあります。このため、

○長時間にわたり、落水させていた場合は、一気に満水まで貯めないよう、漏水等を確認しながら徐々に貯水するように努めて下さい。

○逆に水位を下げるときは、緊急放流の場合を除き、斜樋を上から順に開けていくなど、徐々に下げるようにしましょう。

参考図



- ①斜樋の取水口を開栓し、徐々に水位を下げる
- ②底樋の泥吐ゲートを開門し、完全に排水する

